

— 未来リビングラボ

東京科学大学(田岡 祐樹、中谷 桃子)

多様なステークホルダーが集い、複雑化する社会課題を自分ごととして捉え直し、「ありたい未来」を共に考え、つくり、実装する共創の場を提供している。ワークショップや体験型展示などの参加型活動を通じて、課題発見・アイデア創出・評価のプロセスを回し、現場の知と最新科学技術、デザイン知を結び付け、新たな価値や事業の種を創出する。くらし・ケア・子育て・食などのテーマで未来技術と社会実装の両立をめざし、成果を公開し次の共創へ還流させることで、長期的には未来のくらしを社会に実装する基盤を築く。

総合知により目指すビジョン / 解決する社会課題

未来社会のビジョンを創出し、それを企業や大学の技術・製品開発へ循環的につなげる仕組みの構築を目指すものである。参加者が社会課題を自分ごととして捉え、実現に向けた行動を促す共創プラットフォームの形成を志向する。

ビジョン達成の課題

多様な参加者が、社会課題や未来ビジョンを自らの生活や経験と結び付けて具体的に捉え、実感を伴って未来を想像できるようにすることが不可欠である。そのため、議論が抽象的なレベルにとどまることを避け、参加者の主体的な関与を引き出す取組みが求められる。

「矩」を超えた場づくり / 得られた新たな価値

研究者・企業・行政・生活者などが専門や立場を超えて共創し、ワークショップや体験型展示など公開型の活動により、生活者の経験知と科学技術・デザイン知が交差する場が形成された。これにより、新たな事業の種が生まれ、未来技術の社会実装に向けた価値創出が進んでいる。



研究者



企業



専門家



行政



学生



生活者



ワークショップ



展示



未来社会を実現する製品・サービス



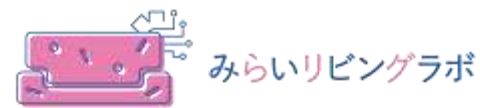
課題解決を実装する多様な人によるチーム



未来社会を支える技術の循環

未来リビングラボ

みらいリビングラボ概要



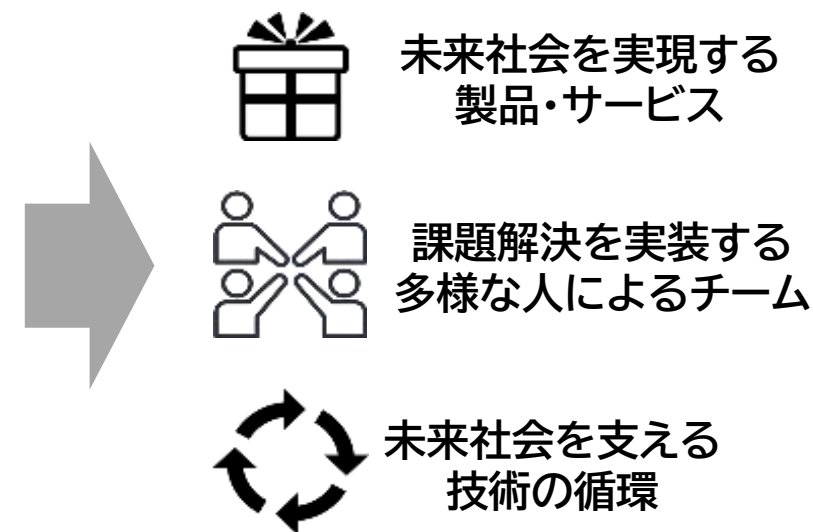
「リビングラボ」とは、生活に近い場(リビング)で生活者と多様な人々がともに課題や価値を探索しながら(ラボ)サービスを生み出す仕組み。

東京科学大学 中谷桃子研究室・齊藤滋規研究室が運営する「みらいリビングラボ」では多様な関係者が創造性を発揮し、未来社会を自分ごととして具現化する場として共創活動・研究活動を行う。

社会のさまざまな人の共創活動への参加を可能とし、社会を一步ずつ変えていくための仕組み・方法論を研究する。具体的には、社会課題を一人ひとりが自分ごと化し、ありたい未来に向けた行動をとることを促す方法論として、ワークショッププログラムやツールを開発する。



みらいリビングラボ



これまでの活動

■ 未来を考えるワークショップ

未来の食、働き方、子育てなど様々な未来について多様な参加者と検討している。



■ イベントにおける体験型展示

大阪・関西万博などのイベントにおいて未来の生活を感じられる体験型の展示を実施している。



■ ワークショップツールの開発

ワークショップで活用できるツールをウェブサイト公開している。



■ 大学祭における体験型展示

大学祭において、未来の社会を感じられるような展示や体験を実施している。

